

# 世界旅打ち気分

●第8回・メトロマニラターフクラブ

須田鷹雄



メトロマニラターフクラブの本馬場入場風景



ガラス張りスタジオで番組進行する  
名物おやじ



メトロマニラターフクラブのスタンド

写真のカラー版は  
<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>  
の  
#グリーンファーム会報#2018年10月号  
でご覧いただけます

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

今日はちょっと変化球というか、珍しいといひでフライ・ピノの競馬場を御紹介しよう。まず簡単に歴史を振り返ると、もともとマニラには市内に2つの競馬場があった。サンタアナ競馬場とサンラザロ競馬場である。この2つは市街地と呼べる便利な立地にあつたのだが、いずれも郊外に移転することになった。そのいきさつについては詳しく述べておいたが、市内の開発が盛んになつたこと、旧競馬場の経営が思わしくなかつたことが原因ではないかと思われる。高騰した地価の競馬場を引き払い、累損を一掃したうえでちょうど遠いところに越したということだ。

そして移転前後は、サンタアナとサンラザロが1週交代で開催を行つて、南関東のような月1回開催で、土日は休みだった。そこに登場したのが、今回御紹介するメトロマニラターフクラブである。この競馬場ができたことにより、3場が入れ替わる形でどうかしら馬が走っているところなどになっている。

メトロマニラターフクラブを作ったのはセブ島で自動車関連のビジ

ティ地区から行くのがいちばんスマースかと思う。行き先はグーグルマップで出せるので、それを運転手に見せながら行けばよい。

競馬場のスタンドはさほど大きくはない、東南アジアの富豪たちのくらいのサイズの家に住んでいるかも、という程度。1階に馬券売り場や飲食コーナーがあり、2階に観覧席がある。日本と違うのは観戦席からすぐ見えるところにガラス張りの実況ブースがあり、名物アナウンサーとおぼしきおやじが場内の雰囲気を盛り上げる。

馬場は左回りで、「メトロマニラターフクラブ」の名前とはつらうに、芝ではなくダート。立派な競馬をやるんだという心意気からか、ゴール板には「高貴な紳士のスポーツ、競馬」というキャッチフレーズが書かれている。

競馬新聞は情報が少なく、出店で手に入る。ただ、フィリピンの走メンバー+簡単な予想くらいしか載っていないものの可能性もある。一応フィリピンにも成績欄付きの新聞はあるのだが、あまり発行部数が多くないよう、競馬

時代にはオーストラリアとサンラザロが1週交代で開催を行つて、南関東のような月1回開催で、土日は休みだった。そこに登場したのが、今回御紹介するメトロマニラターフクラブである。この競馬場ができたことにより、3場が入れ替わる形でどうかしら馬が走っているところなどになっている。

メトロマニラターフクラブを作ったのはセブ島で自動車関連のビジ

ネスを成功させた方で、長年「自分の競馬場を持ちたい」と考えていましたこと。本業のほうで日本企業との取引もあるので、親日的な理事長でもある。現地在住の日本人(中央競馬にも馬主登録のある方)で現地で馬を持っている方もいて、おそらく日本の競馬ファンがイメージしているよりもしっかりと競馬が行われている。

メトロマニラ競馬場の前にフィリピン競馬の話になってしまつが、フィリピンではちゃんとサラブレッドの競馬が行われており、生産もある。タヤスジョンの弟ジンガロが現地で渡つたことを御記憶の方も多いだろうが、3年前でもまだ産駒はちらほら見られた。旧サンタアナ競馬場時代にはオーストラリアのセリ会社・マジッククリオン社が馬場内に広告を出していたりもした。それなりのサラブレッドが走っているものと思われる。ただ、シンガポールのお古が流れぐるマレーシアには競走のレベルとして及ばず、タイよりはかろうじて上か、といった「アバズだ」。

さて、まずはメトロマニラターフクラブへの行き方から御案内しよう。これは他の2競馬場にも共通する」といふことがある。ところでも所要時間は渋滞状況によって異なり、マニラ北西部のマニラやエルミタから出発すると、時間帯によってはマニラを離れるだけで1時間半以上かかる。これは他の2競馬場にも共通する」といふことがある。日本で1万円もあれば足りる。

メトロマニラターフクラブはマニラ市街地から車で1時間半ほど南へ行つたところにある。ところでも所要時間は渋滞状況によって異なり、マニラ北西部のマニラやエルミタから出発すると、時間帯によってはマニラを離れるだけで1時間半以上かかる。これは他の2競馬場にも共通する」といふことがある。日本で1万円もあれば足りる。

日本人観光客が旅打ちで行くとしたら、運転手付きレンタカーを借りるのが無難だ。「運転手付でないとドライバーがセットになつたレンタカーが一般的である。マニラは渋滞がひどいし運転マナーも良くないので、自分で運転しようとはしないほうがいい。レンタカーを借りるのは通じず、タガログ語でないと「ミニ」(ケーション)できない。

日本人観光客が旅打ちで行くとしたら、運転手付きレンタカーを借りるのが無難だ。「運転手付でないとドライバーがセットになつたレンタカーが一般的である。マニラは渋滞がひどいし運転マナーも良くないので、自分で運転しようとはしないほうがいい。レンタカーを借りるのは通じず、タガログ語でないと「ミニ」(ケーション)できない。

競馬場は1階に食堂があり、2階に窓口があり、すべて有人窓口。ローカルの競馬ファンは口頭で買つて、が、日本人が連勝系の複雑な買い目を口頭で伝えるのはまず無理だろう。紙に買い目を書いて出すのがよい。

馬券の種類は、単勝、馬単、3連単、4連単、5連単、レースによっては6連単があるのに加え、2重賞式などの重勝式もある。2重勝は普通のダブルなのだが、XDという重勝式がどうも「レース飛ばし重勝式」のようで、要するに「レース」という感覚の組み合わせになる。馬券は基本的に堅い。単勝は5ペソ単位(日本円でいつ10円強)なのだが、払い戻しが30ペソ=6倍になると「いたなく」という雰囲気になる。基本的に現地のファンは堅く収まると思って馬券を買って、あるレースの単勝が波乱になると、次のレースが堅くてもD(2重勝)の配当がハネたりする。このあたりは日本人が本気で研究すれば何らかの攻略法が見つかる。イカバージョン(串刺し)など、アスストワードを売っている商店もある。

窓口があり、すべて有人窓口。ローカルの競馬ファンは口頭で買つて、が、日本人が連勝系の複雑な買い目を口頭で伝えるのはまず無理だろう。紙に買い目を書いて出すのがよい。

最大6連単まで設定があるのも、堅いレースをなんとか楽しめようとしている結果。賭け式の名称はS-Xと(5連単はPEN)、4連単はQ(RT)。日本でいうマルチの概念はないので、「S-X 1, 2 / 1, 2, 3 / 1, 2, 3, 5, 6: …」のようにフォーメーション式で買い目を書いてみせるといよい。1点あたり2ペソ(4円強)から買えるので、日本ではできないような多点数買いも楽しめる。

メトロマニラターフクラブはフジスブックページを持つしており、他の2競馬場はホームページがある。そこで開催日程を確認し、ぜひ一度トライしていただきたい。